

理学同窓会寄付講義(第3回)

株式会社 静岡新聞社 社会部記者

鈴木 誠之(まさし) 先生

(平成10年3月理学部地球科学科卒業、平成12年3月理工学研究科博士課程前期修了)

『ウミガメから地震まで』

講義概要:朝はウミガメの産卵を取材、昼は地震の記事を書き、夜は殺人事件の取材…。そんな日々が当たり前の仕事内容と、理系記者への期待、大学で学んでよかったこととお話しします。

<主な内容(予定)>

- (1)記者総数120人、15%が女性記者。静岡新聞社とは
- (2)事件事故、災害、地域行事…。“なんでも屋”としての記者
- (3)7時から25時まで…。新聞(事件)記者のリアルな1日
- (4)クライマーズ・ハイは本当か。大事件・大事故取材の裏側
- (5)ニュースの“納期”は「1日～数日」。1行あたり30秒で書け
- (6)熾烈なスクープ合戦。その功罪
- (7)実は似ている「研究」と「ジャーナリズム」
- (8)科学論文、海外サイト…。あると便利な語学力
- (9)一眼レフで年間2万枚。求められる写真(動画)のスキル
- (10)ネット時代だからこそ…。新聞を読む本当の目的とは

略歴:東部総局(沼津市)、三島支局、御前崎支局等を経て、08年3月から社会部。地震防災や危機管理、エネルギー問題を中心に、医療や調査報道など幅広い分野を担当している。静大在学中に気象予報士資格を取得した。

日時:6月17日(木) 午後5時00分～6時30分

場所:理学部B203室

連絡先:理学部地球科学教室
和田 秀樹

電話 238-4910(内線4791)

メール sehwada@ipc.shizuoka.ac.jp